

## 「第 6 回技術者講座」のご案内

### ◆ご案内:

過去 5 年間の実施に引き続き、令和 8 年度におきましても（一財）土木研究センターと（一社）地域国土強靱化研究所が連携して、標記講座を開催いたします。実務に反映できることを念頭に置いておりますが、建設技術者の方々はもちろん、研究者や学生の方々につきましてもお役に立てる最新の内容です。奮ってご参加いただきますようご案内いたします。

### ◆趣旨:

- ・国土強靱化を必要とする地域における要請に応えることができる最新の成果を発信する。
- ・学会等が発信する内容とは異なる視点からの実務に有益な最新の情報を提供する。
- ・技術者継続教育及び建設技術関連資格取得を支援する。

### ◆講座名:「インフラの強靱化に関する最近のトピックス」

### ◆日程など

1. 日 時 令和 8 年 5 月 15 日（金）13:30 ～ 16:35 及び  
令和 8 年 5 月 22 日（金）13:30 ～ 16:40 計 2 日間
2. 方 法 オンライン（Zoom 使用）
3. 主 催 （一財）土木研究センター（<https://www.pwrc.or.jp>）  
（一社）地域国土強靱化研究所（<https://lrri.or.jp>）
4. 共 催 （公社）地盤工学会関東支部
5. 後 援 （公社）土木学会関東支部茨城会  
（一社）茨城県建設コンサルタンツ協会
6. CPD 地盤工学会（5.5 ポイント）または土木学会から賦与（5.5 ポイントを予定）  
上記会員以外は、各自でご対応ください。

### ◆プログラムとスケジュール

★1 日目【 5 月 15 日】13:30 – 16:35

- ・ 13:30 – 13:40 開会あいさつ
- ・ 13:40 – 14:40 トピック(1)

講師：（一財）土木研究センター 化学技師長 西崎 到

演題：「鋼材防食材料・技術の性能評価」

< 14:40 – 14:50 > 休憩

- ・ 14:50 – 16:20 トピック(2)

講師： 国土交通省・国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 七澤利明部長

演題：「道路構造物技術基準改定の目的と今後の取組み」

- ・ 16:20 – 16:35 質疑&総括

★2 日目【5 月 22 日】 13:30 – 16:40

- ・ 13:30 – 13:35 開会あいさつ

- ・ 13:35 – 14:35 トピック(3)

講師：(一財) 土木研究センター 道路研究部長 寺田 剛

演題：「舗装の定期点検と路面性状測定手法」

< 14:35 – 14:45 > 休憩

- ・ 14:45 – 16:15 トピック(4)

講師： 茨城大学 人文学部 教授 伊藤哲司

演題： 「災害避難とリスクコミュニケーション」

- ・ 16:15 – 16:30 質疑&総括

- ・ 16:30 – 16:40 閉会挨拶

◆テキスト(配布資料)

- ・ トピック(1), (2), (3), (4): PPT 資料 (原則として、事前に、WEB 上で配信予定)

◆参加料(テキスト代を含む。申込時一括支払い)：

- ・ 会員：2,000 円

(ここでのいう会員とは、(公社)地盤工学会会員、(公社)土木学会会員、(一社)茨城県建設コンサルタント協会会員、(一財)土木研究センター賛助会員、(一社)地域国土強靱化研究所会員を指すものとします)

- ・ 非会員：3,000 円 (上記以外のご参加者)

<振込先> (期限：令和 8 年 4 月 28 日(火)まで)

- ・ 銀行名：常陽銀行 大穂支店 普通 1181113

- ・ 名義人：一般財団法人土木研究センター

◆お申し込み先:(期限:令和 8 年 4 月 28 日(火)まで)

- ・ URL からの申し込み

(一財) 土木研究センター e-mail : koushuu@pwrc.or.jp

- ・ 別紙申込用紙に記載の上、PDF 版を e-mail にてご送付願います。

◆お問い合わせ先：

- ・ 一般財団法人 土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 米川、梅内

TEL : 029-864-2521 e-mail : koushuu@pwrc.or.jp または

- ・ 一般社団法人 地域国土強靱化研究所 事務局 米川恭子 e-mail: [staff@lrri.or.jp](mailto:staff@lrri.or.jp)

<別紙>

## 第6回技術者講座

「インフラの強靱化のための最近のトピックス」

令和8年5月15日（金）及び5月22日（金）

～参加申し込み用紙～

上記講座に参加いたしたく、申し込みを致します。

- ◆ご氏名： \_\_\_\_\_
- ◆勤務先及び所属部署名／学校名： \_\_\_\_\_  
（学生の場合は、学年を記載ください）
- ◆勤務先〒・住所： \_\_\_\_\_  
（学生の場合は、ご自宅〒・住所）
- ◆ご所属学会＆団体： \_\_\_\_\_  
（地盤工学会会員番号： \_\_\_\_\_）  
（土木学会会員番号： \_\_\_\_\_）
- ◆電話／ファックス： \_\_\_\_\_／ \_\_\_\_\_
- ◆e-mail address： \_\_\_\_\_

- ◆CPD 証明書の希望 有 : 無 （どちらかに○をお付けください）

※有に○を付けた方は、希望する CPD を○印でお選びください。

A. 地盤工学会用 : B. 土木学会用 : C. 他団体用参加証明書

- ◆申し込み先（期限：令和8年4月28日（火）まで）：

- ・ URL からの申し込み（一財）土木研究センター e-mail：koushuu@pwrc.or.jp
- ・ 上記申込用紙に記載の上，PDF 版を e-mail にて送付願います。

- ◆参加料の払い込み日時：

- ・ お振込日又は予定日 令和8年 月 日（お振込額： \_\_\_\_\_ 円）

- ◆申し込み先：

- ・ 一般財団法人 土木研究センター 技術研究所 庶務・広報部 米川、梅内  
TEL：029-864-2521 e-mail：koushuu@pwrc.or.jp

## 「第6回技術者講座」

### 講師プロフィール&講義概要

◆令和8年5月15日(金)

【トピック(1)】:「鋼材防食材料・技術の性能評価」

【講師】: (一財) 土木研究センター 化学技師長 西崎 到



- ・略歴: 1985年4月 建設省土木研究所 地質化学部化学研究室 研究員  
(1995年9月~1996年9月 カナダ シェルブルック大学客員研究員)  
2004年4月 独立行政法人土木研究所材料地盤研究グループ新材料チーム上席研究員  
2015年4月 国立研究開発法人土木研究所 先端材料資源研究センター上席研究員  
(先端材料・高度化担当)、2019年4月 国立研究開発法人土木研究所 先端材料資源研究センター材料資源研究グループ長、2023年4月 一般財団法人土木研究センター 化学技師長
- ・専門: 土木材料、防食材料、高分子系複合材料
- ・資格: 博士(工学)

#### 【講義概要】:

腐食は鋼橋の主要な損傷原因の一つであり、鋼橋の長寿命化を目指して様々な新しい防食材料・技術が提案されつつある。防食材料・技術が実際の使用において、十分な防食性能や耐久性を有するかの評価は、既に活用されている防食材料・技術については品質規格や促進試験方法が確立されているが、新しい材料・技術の場合には必ずしも明確に確立されていないのが現状である。このため、新しい防食材料・技術の防食性能や耐久性評価においては、試験施工や屋外暴露試験によって、実際の環境での防食性能や経時変化挙動の把握から始めることが、近道と言える。

土木研究センターでは、上記のような鋼橋のための新しい防食材料・技術(例えばさび除去や素地調整方法など)の防食性能や耐久性評価のための施設として、鴨川暴露場を整備・運用している。この暴露場は飛来塩分量の多い沿岸地域の高架橋の下にあるため、実際の鋼橋部材が置かれる環境と近い条件での暴露試験が可能である。

この暴露場での暴露試験結果からは、高架橋下での鋼材の腐食しやすさが、暴露場周辺の一般的な条件よりも厳しいことが分かっている。その要因としては、高架橋下では飛来塩分が雨水によって洗い流されにくい、などと推定されているが、詳細な要因は分かっていない。そこで、土木研究センターでは、この暴露場内のいくつかの地点を選んで、腐食に影響すると考えられる環境因子の観測と、裸鋼材の暴露試験による腐食しやすさの関連を調べる自主研究を実施している。本講義では、その概要および現時点での結果報告とともに、暴露試験による鋼材防食材料・技術の性能評価について解説する。



鴨川暴露場の位置図



暴露場の状況

## 【トピック（2）】：「道路構造物技術基準改定の目的と今後の取組み」

【講 師】： 国土交通省国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部長 七澤 利明



- ・略歴：1994 年建設省土木研究所 橋梁構造部基礎研究室研究員（採用）、2012 年 7 月 独立行政法人土木研究所構造物メンテナンス研究センター橋梁構造物研究グループ上席研究員、2018 年 7 月 国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部構造・基礎研究室長、2022 年 4 月 国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所長、2025 年 7 月 国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部長
- ・専門：基礎工学、構造工学、地盤工学
- ・資格：博士（工学）、技術士（建設部門）

### 【講義概要】：

令和 7 年 6 月に「道路土工物技術基準」、同年 8 月に「橋、高架の道路等の技術基準（道路橋示方書）」が改定され、解説を示した図書も発刊された。また、同年 8 月には「舗装の構造に関する技術基準」の改定、令和 8 年 3 月には「道路トンネル技術基準」の改定に関して社会資本整備審議会道路分科会道路技術小委員会で審議された。

このように全ての道路構造物の技術基準改定が同時期に行われるのは過去に例がなく、令和 6 年能登半島地震での被害を踏まえた対応など改定の背景・目的には多くの共通事項がある。

今回の講義では、道路構造物に関する技術基準改定の全般的な潮流を理解してもらうため、複数の基準に共通する目的と改定での主な対応や今後の取組みについて紹介する。



令和 7 年 8 月 2 日  
都市局街路交通施設課  
道路局 国道・技術課

「橋、高架の道路等の技術基準」（道路橋示方書）の改定について  
～能登半島地震や性能規定化の一層の充実等を踏まえた技術基準の改定～

「橋、高架の道路等の技術基準」（道路橋示方書）は、昭和 47 年の制定以降、技術的な知見や社会的な情勢の変化等を踏まえて改定を行ってきたところですが、今般、能登半島地震を踏まえた対応や合理的な設計が実現できるよう編成の変更を伴う改定を行いましたのでお知らせします。

#### <改定のポイント>

- 新しい形式の提案に対しても適切に性能を評価するための枠組みを充実
- 様々な耐久技術の開発を見据え、耐久性能の評価方法を明確化
- 能登半島地震を踏まえた対応（復旧性を向上させるための規定を充実）

#### 1. 概要

「橋、高架の道路等の技術基準」（道路橋示方書）は、高速道路、国道の橋梁の設計に用いる基準であり、その他の道路橋の設計においても一般的に用いられています。

今回の改定により、安全性の向上、技術開発・新技術導入の促進、ライフサイクルコストの削減が図られるとともに、適切な維持管理による橋の長寿命化が期待されます。

#### 2. スケジュール

令和 8 年 4 月 1 日以降、新たに着手する設計に適用します。

#### 3. その他

基準の内容は、国土交通省道路局ホームページで公表しています。

<https://www.mlit.go.jp/road/sign/kiyun/bunya04.html>

#### <問合せ先>

道路局 国道・技術課 課長補佐 北田  
代表：03-5253-8111（内線 37865） 直通：03-5253-8498  
都市局 街路交通施設課 企画専門官 本山  
代表：03-5253-8111（内線 32862） 直通：03-5253-8417



令和 7 年 6 月 2 日  
道路局 国道・技術課  
都市局 街路交通施設課

#### 「道路土工物技術基準」の改定について

～令和 6 年能登半島地震による被害を踏まえた対応等～

平成 27 年 3 月に制定した「道路土工物技術基準」について、今般、令和 6 年能登半島地震による被害を踏まえた対応や、道路機能を確保する観点からの性能規定の充実を目的として、以下のとおり改定しました。

#### <改定のポイント>

- 道路土工物構造物の設計初期段階における配慮事項の明確化
- 地質及び地盤等の不確実性への対応の明確化
- 排水対策の明確化
- 性能規定の具体化

#### 1. 概要

「道路土工物技術基準」は、道路土工物構造物の新設又は改築に関する一般技術基準であり、道路法に基づいて制定されたものです。

今回の改定により、地盤等のリスク低減に伴う手戻りやコスト増の緩和、盛土等における適切な排水対応 および 各構造物の限界状態を踏まえた、より復旧性の高い設計や補修が可能となることなどが期待されます。

#### 2. 適用年月日

本基準は、令和 8 年 4 月 1 日以降、新たに着手する設計に適用します。

#### 3. その他

基準の内容は、国土交通省道路局ホームページで公表しています。

<https://www.mlit.go.jp/road/sign/kiyun/bunya02.html>

#### <問い合わせ先>

道路局 国道・技術課 課長補佐 児玉  
代表：03-5253-8111（内線 37893） 直通：03-5253-8498  
都市局 街路交通施設課 企画専門官 上田  
代表：03-5253-8111（内線 32862） 直通：03-5253-8417



<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001906067.pdf>

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001897110.pdf>

◆令和 8 年 5 月 22 日（金）

【トピック（3）】：「舗装の定期点検と路面性状測定手法」

【講 師】：（一財）土木研究センター 道路研究部長 寺田 剛



・略歴：1979 年建設省土木研究所に入所。地質化学部化学研究室に所属。アスファルト、防水材、塗料等土木材料の研究・開発を行う。2000 年土木研究所道路部舗装研究室。2001 年独立行政法人土木研究所に出向。基礎道路技術研究グループ舗装チームに所属。主任研究員として舗装に関する研究・開発を行う。2015 年国立研究開発法人土木研究所道路技術研究グループ舗装チーム。2016 年総括主任研究員。2021 年 6 月～一般財団法人土木研究センター道路研究部長。現在は、道路、舗装、交通安全施設に関する業務に従事。

・専門：舗装

・資格：上級土木技術者

【講義概要】：

現在、舗装の点検は、「舗装点検要領（平成 28 年 10 月国土交通省道路局）に従い、5 年に 1 回の頻度で実施されている。

今回の講演では、この点検要領の内容と、点検で実施されているわだち掘れ、ひび割れ及び IRI の路面性状測定の手法について説明する。

また、路面性状を測定する装置として路面性状測定車が多く用いられているが、路面性状測定車は性能を確認するため、1 年に 1 回性能認定試験が実施されている。この性能認定試験の実施内容について紹介する。

実施している性能確認試験

○路面性状測定車について、路面性状であるひび割れ、わだち掘れ、平坦性 $\sigma$ 、距離の4指標について性能確認試験を実施し、性能確認証書の発行および試験結果報告書を交付



勢揃いした路面性状測定車



専用測定車両



スマホ等搭載車両



平坦性ユニット

レーザドップラ速測計

専用測定車両

性能確認試験を実施している路面性状測定車

## 【トピック(4)】 「リスクコミュニケーションと災害避難」

【講 師】： 茨城大学人文社会科学部 教授 伊藤哲司



1964 年、愛知県名古屋市生まれ。名古屋大学文学部卒／名古屋大学大学院文学研究科満期退学後に茨城大学に赴任。人文学部／人文社会科学部で教鞭を執り 33 年。ベトナム・ハノイでの在外研究（1998 年～1999 年）を経験し、学際的なサステナビリティ学に取り組む茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS）の 2 代目の機関長を務め（2014 年～2020 年）、現在はハノイにある日越大学（Vietnam Japan University）の気候変動開発プログラムの講師も務めている。専門は社会心理学で、バランスの取れた文理融合のかたちを目指し、コミュニティ再生をナラティブ（語り）で図ろうと試みている。博士（心理学）

### 【講義概要】：

本講義では、「リスクコミュニケーションと災害避難」をテーマに、災害時に人びとがどのように情報を受け取り、判断し、行動するのかを社会心理学の視点から考える。災害対策はしばしばハザードマップや避難情報の整備といった制度や技術の側面に注目が集まりがちである。しかし実際の避難行動は、人びとの認知や感情、周囲との関係性、地域社会の文化などに強く影響される。つまり、防災は単に情報を「伝える」問題ではなく、人と人との関係の中で意味を共有していくリスクコミュニケーションの問題でもある。

例えば、大雨や地震の際に避難情報が出ても、「まだ大丈夫だろう」という正常性バイアスや、「みんなが避難していないから自分も残る」という同調行動が避難を遅らせることがある。こうした現実を踏まえると、災害時の避難を考える上では、単に正しい知識を伝えるだけではなく、人びとが互いの立場や葛藤を理解しあう対話の場が重要になる。

問題①



### あなたは川の近くに住む小学生

夏休み、家でひとり留守番をしています。大雨が続いていましたが、今は降っていません。お母さんから「もうすぐ帰るね」と連絡がありましたが、大雨のせいで川の水が増えてきたようです。お母さんに電話しましたが通じません。家の外の放送で「避難してください」と言っています。あなたはすぐ避難しますか？

Yes（すぐに避難する） or No（母が帰ってくるのを待つ）



図 クロスロードの問題例

その一つの方法として、本講義では防災ゲーム「クロスロード」を紹介する。クロスロードは、参加者が災害時のジレンマ状況について「Yes／No」を選び、その理由を語りあうことで、防災の意思決定の難しさを体験的に学ぶことができる。正解が一つではない状況の中で人びとがどのように判断するのかを考えることになる。

クロスロードの重要な点は、知識を一方向に教えるのではなく、参加者同士の対話を通じて防災の意味を共有するところにある。そこでは専門家の知識と地域の経験が交差し、それぞれの語りが新たな理解を生み出す。本講義では、このような対話型の学びを通じて地域の防災力を高める可能性を示しながら、リスクコミュニケーションの視点から災害避難をどのように考えるべきかを提起する。災害に強い社会とは、情報が届く社会である。